令和8年10月16日　田園調布中学校　自閉症・情緒障害特別支援学級開設説明会質疑応答

番号	質問	回答
1	【説明会へ参加された方からのご意見】 自閉症・情緒障害特別支援学級を開設することについて、生徒ならびに地域住民の所感を紹介させていただきます。 （交流及び共同学習を経験した生徒） 交流及び共同学習を通じて、障がいのある人も自分たちと同じように学校に通い、学び、生活していることを知り、障がいのある人への理解が深まりました。また、環境を整えるだけではなく、一人ひとりの状況に応じた配慮や手助けも大切だと学びました。これからは、相手の立場や必要としていることを考え、適切な関わりができるよう心がけていきたいです。 （地域住民） 自閉症・情緒障害特別支援学級へのニーズが高まる中、一人ひとりの特性に応じた支援のもと、安心して学べる環境が整えられることが期待されます。また、通常の学級との交流及び共同学習を楽しみにするこどもたちの姿も見られ、互いを知り、個性や違いを尊重しながら共に学ぶ機会につながっていくのではないでしょうか。	貴重なご意見ありがとうございます。 交流及び共同学習を通じた気付きや、一人ひとりに応じた支援の大切さについての御意見を今後も紹介し、自閉症・情緒障害特別支援学級や交流及び共同学習への理解が広がるよう努めてまいります。
2	区内に特別支援学級の設置校をどの程度増やしていく予定でしょうか。	自閉症・情緒障害特別支援学級に限らず、知的障害特別支援学級も含め、今後も特別支援教育のニーズは増え続けていくと見込んでいます。 現在、区立小中学校では、知的障害特別支援学級や自閉症・情緒障害特別支援学級が、計31校に設置（開設予定1校を含む）とされています。 特別支援学級が設置されていない区小中学校には、今後なんらかの特別支援学級を段階的に整備していく必要があると考えております。
3	通常の学級の生徒数減少を懸念していますが、どのように考えていますでしょうか。	今回の開設は、田園調布中学校の生徒数減少に対応するためのものでは決してありません。区内において、こどもたちの一人ひとりの特性やニーズに寄り添い、必要な支援につながる環境を整え、学びの選択肢を広げていく取組の一環です。 田園調布中学校に限らず、区内の小中学生の児童、生徒数が減少傾向にあります。「子育てナンバーワン都市」を目指し、教育環境の充実に取り組んでいます。
4	特別支援学級で問題が発生した場合は、通常級とは異なり教育委員会事務局の管理や対応となるのか。	特別支援学級も当該学校の一部であり、田園調布中学校として対応していきます。
5	特別支援学級の学級名は、学校で決めることができるのでしょうか。	学級名称は学校が検討・決定し、教育委員会事務局に報告いただいています。参考ですが、蒲田中学校は「あやめ学級」としております。
6	自閉症・情緒特別支援学級の担任は、現在田園調布中学校で勤務している通常の学級の教員がなるのでしょうか。	人事のことですので、確実なことは申し上げられないと考えておりますが、これまでの開設時の状況では、特別支援学級の教員は、特別支援学級等の経験を積んだ教員が配置されている傾向にあります。
7	自閉症・情緒障害特別支援学級の生徒の中には、突発的な行動や教室を離れる行動が生じることも考えられます。本人や周囲の安全を確保するため、どのような体制・対応を想定していますか。	通常の学級と同様に、学校では危機管理マニュアルに基づき、生徒の安全確保に向けた体制を整え、学校の管理下で運営をします。日々の教育活動や安全管理は学校が責任をもって行い、必要に応じて教育委員会も連携し、対応してまいります。 自閉症・情緒障害特別支援学級では、教員の配置は、学級数に追加で1名を配置予定です。また、介添員（支援員）も配置し、生徒の状況に応じて教員等が連携しながら、安全に配慮した支援を行ってまいります。

8	自閉症・情緒特別支援学級の担任は、特別支援の資格を持った教員がなるのでしょうか。	自閉症・情緒障害特別支援学級の担任には、特別支援学校教諭免許状の保有が一律に必須とされているわけではありません。担当する学校種に応じた教員免許状を有する教員が担任を務めます。なお、生徒の実態に応じた指導・支援ができるよう、教員の専門性の向上にも努めています。
9	第1回説明会のQA5「具体的な交流学習の事例」について、運動会や合唱コンクール、社会科見学等の行事や実技教科等の一部の授業は、交流及び共同学習としている事例があるとのことですが、実技教科での交流及び共同学習の詳細を教えていただきたいです。また、実技教科以外で交流及び共同学習を行っている事例も教えてください。	交流及び共同学習の内容や実施方法は一律ではありません。どの教科や活動で交流するかは、学校と保護者が情報を共有しながら、生徒一人ひとりの実態に応じて計画します。 運動会や合唱コンクール、社会科見学などへの参加についても、生徒の状態に応じて交流及び共同学習をしている事例があります。
10	特別支援学級等の在籍者数の推移をホームページに掲載いただきたい。	ホームページへ掲載いたします。